

発達障害児者の理解と支援の研修に関する実態調査

このアンケートは、発達障害児者支援に関する効果的な研修プログラムの開発に向けて、全国の発達障害者支援センターと教育センターを対象に、様々な発達障害児者のアセスメント・ツール、支援技法、支援体制等に関する研修の実態を把握することを目的としております。

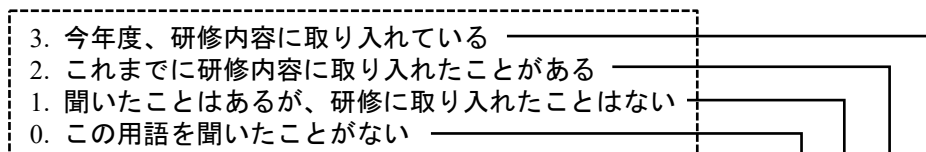
本調査はあくまでも実態把握を目的としたものであり、各地域・機関の取り組みを評価するものではありません。結果は機関種別、エリアごとなどで集計してまいります。

得られた結果は、今後の発達障害児者支援に関する支援者研修の開発に役立ててまいります。発達障害支援に関する研修担当者の方に、貴機関での研修実態についてご回答いただければ幸いです。ご多用のことと存じますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

・はじめに、貴機関の所在地、機関種別をご記入ください。

自治体名 (記入)	都道 府県	区市 町村
機関種別 (数字に○)	1. 発達障害者支援センター 2. 教育センター 3. その他 (以下にご記入ください)	
その他機関名		

1) アセスメント・ツールと2) 各種支援技法における以下の項目について、「0. この用語を聞いたことがない」から「3. 今年度、研修内容に取り入れている」まで、貴機関に当てはまる回答番号1つに○をつけてください。



1) 各種アセスメント・ツールに関する研修実態	0	1	2	3
1-1. <u>WISC-IV</u> 日本文化科学社 子ども用のウェクスラー式知能検査(5歳0ヶ月～16歳11ヶ月)	0	1	2	3
1-2. <u>WAIS-IV</u> 日本文化科学社 大人用のウェクスラー式知能検査(16歳0ヶ月～90歳11ヶ月)	0	1	2	3
1-3. <u>日本版 K-ABCII (Kaufman Assessment Battery for Children)</u> 丸善出版 2歳6ヶ月～18歳11ヶ月の子どもの認知能力・基礎学力の測定	0	1	2	3
1-4. <u>田中ビネー知能検査 V</u> 田研出版 2歳～成人までを対象とした知能検査	0	1	2	3
1-5. <u>新版 K 式発達検査</u> 京都国際社会福祉センター 生後100日～成人まで対象。対象者の観察から、発達の全体像をとらえる検査	0	1	2	3
1-6. <u>日本語版 M-CHAT</u> 国立精神・神経医療研究センター 主養育者が記入、また面接等による、対象児のASD特性評価ツール	0	1	2	3
1-7. <u>PARS@-TR 親面接式自閉症スペクトラム症評価尺度</u> 金子書房 対象児者の主養育者への半構造化面接による、ASD特性・支援ニーズ評価ツール	0	1	2	3
1-8. <u>ADOS-2 日本語版 (Autism Diagnostic Observation Schedule)</u> 金子書房 半構造化された行動観察や面接から、対象児者のASD症状の評価を行うツール	0	1	2	3
1-9. <u>ADHD-RS Dupaul, G. J. et al. (1998) 監修: 市川宏伸・田中康雄 (2008)</u> 養育者や教師が質問紙に回答し、対象児者のADHD特性を評価する質問紙	0	1	2	3

- 3. 今年度、研修内容に取り入れている
- 2. これまでに研修内容に取り入れたことがある
- 1. 聞いたことはあるが、研修に取り入れたことはない
- 0. この用語を聞いたことがない

1) 各種アセスメント・ツールに関する研修実態 (つづき)				
1-10. <u>Conners3®日本語版</u> 金子書房 対象者の自己記入(8~18歳)、あるいは対象者(6~18歳)をよく知る保護者か教師が質問紙に回答することでADHDとその関連症状を評価する質問紙	0	1	2	3
1-11. <u>CAARS™日本語版(Conners' Adult ADHD Rating Scales)</u> 金子書房 対象者の自己記入、あるいは対象者をよく知る観察者の評価により、成人(18歳以上)のADHD症状の重症度を評定する質問紙	0	1	2	3
1-12. <u>CAADID(Conners' Adult ADHD Diagnostic Interview for DSM-IV)</u> 金子書房 18歳以上を対象に、パートI:生活歴・生育歴等の記入とパートII:ADHD症状評価を用いて、ADHD診断を行うための半構造化面接ツール	0	1	2	3
1-13. <u>CLASP(Check List of Obscure Disabilities in Preschoolers)</u> 国立障害者リハビリテーションセンター 対象児をよく知る養育者か保育士・教諭等が回答することで、対象児の吃音、チック症、LD、DCDの傾向を評定する観察シート	0	1	2	3
1-14. <u>STRAW-R改訂版標準読み書きスクリーニング検査</u> インテルナ出版 小学生から高校生を対象に、課題を通して読み書きを把握する検査	0	1	2	3
1-15. <u>JMAP/S-JMAP日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査</u> 教育評価研究所 幼児を対象に前学業的問題のスクリーニングを行う検査	0	1	2	3
1-16. <u>SP感覚プロファイル</u> 日本文化科学社 保護者や支援者等が回答し、視覚・聴覚などの感覚特性を測定する質問紙	0	1	2	3
1-17. <u>CBCL 6-18(Child Behavior Checklist)</u> スペクトラム出版 養育者が回答し、心理社会的な適応/不適応状態を包括的に評価する質問紙	0	1	2	3
1-18. <u>SDQ(Strength and Difficulties Questionnaire)</u> Goodman, R. (1997) 親や教師による回答、または11歳以上は本人による回答により、対象児の情緒や行動について評定する質問紙	0	1	2	3
1-19. <u>DSRS-C(バールソン児童用抑うつ性尺度)</u> 三京房 小中学生本人が回答し、抑うつ症状について評定する18項目の質問紙	0	1	2	3
1-20. <u>CES-D(うつ病(抑うつ状態)自己評価尺度)</u> 千葉テストセンター 15歳以上の本人が回答し、抑うつ症状について評定する20項目の質問紙	0	1	2	3
1-21. <u>SCAS(スペンス児童用不安尺度)</u> 三京房 小3~中3の本人が回答し、不安症状について評定する38項目の質問紙	0	1	2	3
1-22. <u>CMAS(児童用不安尺度)</u> 三京房 小4~中3の本人が回答し、不安症状について評定する53項目の質問紙	0	1	2	3
1-23. <u>Vineland-II適応行動尺度</u> 日本文化科学社 対象児者をよく知る保護者や支援者を対象に半構造化面接を行い、対象児者の日常生活における適応行動を評定する尺度	0	1	2	3
1-24. <u>TASP保育・指導要録のための発達評価シート</u> スペクトラム出版社 対象児をよく知る保育士・教諭等が質問紙に回答することで、対象児の園生活における適応行動を評定する他者評定尺度	0	1	2	3
1-25. <u>PNPS肯定的・否定的養育行動尺度</u> 金子書房 主養育者が回答し、対象児に対する養育行動を包括的に評価する質問紙	0	1	2	3
1-26. <u>スペース(SPACE:遊び・社会性のアセスメント)</u> Shire, S. Y. et al. (2018) 半構造化された短時間の遊びから、対象児の共同注意・要求行動・遊びの自発的なスキルを評価するツール	0	1	2	3
1-27. <u>DSQ-IID(Dementia Screening Questionnaire for Individuals with Intellectual Disabilities)</u> 国立のぞみの園研究紀要 第3号 知的障害のある人のための認知症判別テスト	0	1	2	3

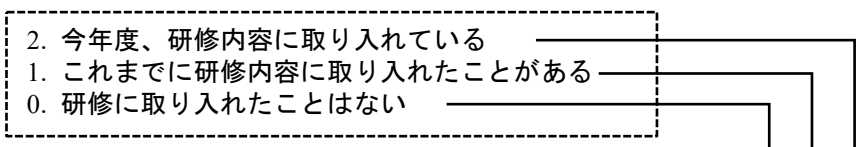
- 3. 今年度、研修内容に取り入れている
- 2. これまでに研修内容に取り入れたことがある
- 1. 聞いたことはあるが、研修に取り入れたことはない
- 0. この用語を聞いたことがない

2) 各種支援技法に関する研修実態					
<u>2-1. 構造化、視覚支援</u>	発達障害(主に自閉スペクトラム症)の認知特定に合わせ、空間配置の工夫やスケジュールの提示、視覚的情報の活用など環境面の調整から適応を促す支援	0	1	2	3
<u>2-2. 応用行動分析(ABA: Applied Behavior Analysis)</u>	標的となる行動の背景にある要因を分析しコントロールすることで、対象者の問題を解決しようとする心理療法	0	1	2	3
<u>2-3. 言語療法</u>	音声機能や言語機能などに障害のある人を対象に、機能の維持・向上を図るための言語等の訓練を行う支援	0	1	2	3
<u>2-4. ジャスパー(JASPER: Joint Attention, Symbolic Play, Engagement and Regulation)</u>	ASD 児を対象に、遊びを通して対人関係における自発的な関わり合いの促進や遊びスキルの獲得などを目指す支援技法	0	1	2	3
<u>2-5. ESDM(Early Start Denver Model)</u>	応用行動分析(ABA)を基にした、2歳前から4歳までのASD児を対象に介入を行う超早期療育。遊びを通して、他者との関わりや生活での適応行動の獲得を促す支援	0	1	2	3
<u>2-6. 環境調整</u>	対象児者の適応行動を増やす、または不適応行動を減らすために、人や物などの環境要因を適切なもの・程度に変更・調整する支援	0	1	2	3
<u>2-7. 感情理解・感情調整</u>	支援対象者本人が、自分に沸き起こる感情への名前付けや心身の状態の気づきを促すとともに、呼吸法などのスキルや対処法を用いて感情を調整する技法	0	1	2	3
<u>2-8. 感覚統合療法</u>	身体運動を伴う活動により、姿勢調整能力や触覚識別能力、身体図式・運動企画力など、知覚と運動の統合を促す支援	0	1	2	3
<u>2-9. SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)</u>	適切な対人関係のスキルを提示し、モデリングやリハーサル、フィードバックなどの手続きを経て教える方法	0	1	2	3
<u>2-10. フレンドシップ・プログラム</u>	学校など日常生活をより楽しく過ごすための、友達との関わり方のポイントや注意点について、グループワークを通して学ぶように構成されたプログラム	0	1	2	3

- 3. 今年度、研修内容に取り入れている
- 2. これまでに研修内容に取り入れたことがある
- 1. 聞いたことはあるが、研修に取り入れたことはない
- 0. この用語を聞いたことがない

2) 各種支援技法に関する研修実態 (つづき)					
<u>2-11. ストレス・コーピング</u>	ストレスの源となるものごとの受け止め方を変えたり、ネガティブな考え方を柔軟で合理的な考え方に変えたりすることで、ストレスへの対処の仕方を向上させる支援	0	1	2	3
<u>2-12. ソーシャル・サポート</u>	支援対象者本人が自分で問題を解決したり課題に対処したりするだけでなく、家族や友人、専門家などの信頼できる他者に相談をしてサポートを求めることを促す支援	0	1	2	3
<u>2-13. ライフログクリエイター</u>	当事者と支援者がペアで登録し支援を行う無料アプリ。生活チェック機能による当事者の状態把握や、イベント機能による余暇での交流の促進に活用可能	0	1	2	3
<u>2-14. 自己理解</u>	支援対象者本人が、発達障害特性だけでなく自分自身の得意・苦手を理解し、日常生活を円滑に送るために必要な対処行動や援助要請につなげることを促す支援	0	1	2	3
<u>2-15. ピアーズ (PEERS: Program for the Education and Enrichment of Relational Skills)</u>	ASD や ADHD など友人関係で課題を抱えている思春期・青年期の子どもを対象に、友だち作りや上手な付き合い方を実践的に学ぶプログラム	0	1	2	3
<u>2-16. 自閉スペクトラム症専門ショートケアプログラム</u>	精神科医療機関における自閉スペクトラム症を対象としたショートケアプログラム	0	1	2	3
<u>2-17. ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health)</u>	世界保健機関(WHO)総会において採択された、生活機能・障害・健康の国際分類	0	1	2	3
<u>2-18. ペアレント・プログラム(ペアプロ)</u>	発達障害特性の有無に関わらず、養育者が認知行動療法を基にした子どもの行動からの理解と肯定的な関わり方についてグループ・ワークを通して学び、子どもをほめることや具体的な行動で伝えるスキルの獲得を目指すプログラム	0	1	2	3
<u>2-19. ペアレント・トレーニング(ペアトレ)</u>	発達障害児への関わり方について、養育者が行動療法を基にした技法を学び実践することで、子どもの適応行動の促進と不適応行動の改善を目指すプログラム	0	1	2	3
<u>2-20. ペアレント・メンター</u>	一定のトレーニングを受け心理的サポートスキルを身に着けた発達障害児を育てた養育者(メンター)が、現在子育てで困っている養育者に共感的な支援や地域資源等についての情報提供を行うことで支え合う活動	0	1	2	3

3) ライフステージにおける課題と関連領域での支援体制の理解について、「0. 研修に取り入れたことはない」から「2. 今年度、研修内容に取り入れている」まで、貴機関に当てはまる回答番号1つに○をつけてください。



3) ライフステージにおける課題・支援と支援体制の理解に関する研修実態	0	1	2
3-1. <u>幼児期における医療・福祉との連携・支援</u> 乳幼児健診による早期把握、医療機関における早期診断、福祉機関における療育 など	0	1	2
3-2. <u>就学移行における把握</u> 小学校入学前の、就学時健診や5歳児発達健診における把握	0	1	2
3-3. <u>特別支援教育に関する理解</u> 特別支援学校や特別支援学級、通級指導、個別の支援計画と個別の教育支援計画 など	0	1	2
3-4. <u>学校における学習支援</u> 読み・書き・計算・空間把握などの学習に関する実態把握と支援	0	1	2
3-5. <u>青年期以降におけるメンタルヘルス上の問題の理解、医療との連携</u> 不安や抑うつ、強迫症状等の精神疾患の理解と医療機関との連携 など	0	1	2
3-6. <u>生活支援</u> 社会生活の自立に必要な衣食住に関わる様々なスキルを、日常生活での実践を目指して身につける支援	0	1	2
3-7. <u>就労支援</u> 就職や安定した就労の継続に向けて行われる、対象者の自己理解促進や就労スキルの獲得などを目的とした支援	0	1	2
3-8. <u>余暇支援</u> 充実した社会生活や心身の健康の維持に重要な、心身の休息やリフレッシュ、私生活の充実につながる、休日の過ごし方などの余暇活動の支援	0	1	2
3-9. <u>地域における医療・福祉・教育等の多機関・多職種連携</u> 各地域における医療・福祉・教育機関や職種の役割の理解と連携の仕方 など	0	1	2
3-10. <u>国における発達障害施策の理解</u> 発達障害者支援法などに規定される、発達障害者支援に関する国の主な施策の理解	0	1	2

以上でアンケートは終了となります。

ご多用のところご協力いただき、誠にありがとうございました。